



稔り豊かな 平鹿平野をめざして 横手西部農業水利事業

東北農政局
平鹿平野農業水利事業所

目 次

国営雄物川筋農業水利事業（昭和21～55年度）	1
前歴事業をカバーする3つの国営更新事業（平成13年～）	2
国営平鹿平野農業水利事業（平成13～25年度）	4
国営横手西部農業水利事業（平成24～32年度）	6
事業の実施状況（横手西部地区）	8
事業効果の発現（横手西部地区）	10
事業受益地内の農地の状況	12
横手市の農業	13

事例紹介

産業政策

豊かで競争力ある農業 ～産地収益力の向上～

TOPIC1	地下灌漑システムの導入により、高収益性作物の栽培を拡大	14
TOPIC2	集落全体で取り組む環境保全型農業を通じたコメ輸出の展開	15
TOPIC3	2年3作の栽培体系により収益性の高い農業経営を確立	15
TOPIC4	取引先のニーズに対応できる栽培体系で収益力を向上	16
TOPIC5	地元の農産物を加工・販売し、年間売り上げ4.4億円へ	16
TOPIC6	農地中間管理事業等を活用し経営規模を238haまで拡大	17
TOPIC7	農業ICT技術を活用して水田作業を効率化	18

地域政策

美しく活力ある農村

～農村協働力と美しい農村の再生・創造～

TOPIC8	小さな輪（和）から大きな広がり そして目指すは「結い」の復活	20
--------	-----------------------------------	----

国営雄物川筋農業水利事業（昭和21～55年度）

昭和に入り、度重なる水不足と氾濫被害を解消すべく、国営雄物川筋農業水利事業が実施されます。総事業費154億円、35年の月日かけた国家の一大プロジェクトでした。本事業により、雄物川水系の皆瀬成瀬地区・旭川水系（現横手川）の旭川地区合わせて1万4千町歩の農地が干ばつ、洪水の被害から解放されました。

事業名		国営雄物川筋農業水利事業	
受益地		横手市外2市4町2村 14,325ha	
工期		昭和21～55年度(35年間)	
事業目的		水不足と氾濫被害の解消(戦前戦後の食料増産対策の一環)	
事業内容	成瀬皆瀬地区	皆瀬ダム取水塔	皆瀬ダムは特定多目的ダム法に基づいて築造。農業用水として12,000千m ³ /年を依存し、本事業では取水塔を築造。
		皆瀬頭首工	最大取水量:14.885 m ³ /s
		成瀬頭首工	最大取水量: 5.517 m ³ /s
		大屋沼溜池	有効貯水量: 1,624 千m ³
		幹線用水路	8路線 延長: 62.1 km
		幹線排水路	5路線 延長: 39.0 km
	旭川地区	あいののダム	有効貯水量: 3,556 千m ³
		新一の堰頭首工	最大取水量: 7.20 m ³ /s
		新上堰頭首工	最大取水量: 3.03 m ³ /s
		幹線用水路	2路線 延長: 13.1 km
総事業費		154億円	

～当時の事業計画書～

地域は成瀬川外二川を主要水源とするが干天持続すれば共に流水は枯渇して、全地域に亘り用水不足を訴えたために年来溜池を築造し用水路を改良し、この水不足を補わんとしたが、何れも規模小で十分な用水を得ることを得ず、干天時は応急唯一の対策として地下水利用を策し、各種揚水機を総動員してなお莫大な被害を蒙っている。（「雄物川筋利水の苦闘史」昭和56年3月）

皆瀬ダム取水塔



皆瀬頭首工



皆瀬ダムの完成と相まって水不足は飛躍的に改善されました。

成瀬頭首工



平鹿堰堤のあった位置に4堰を統合する形で新しい頭首工を建設しました。

幹線用水路の施工状況



成瀬1号幹線用水路



施工後の石持川幹線排水路



皆瀬1号幹線用水路



前歴事業をカバーする3つの国営更新事業（平成13年～）

国営雄物川筋農業水利事業の実施から半世紀近くが経過し、施設の老朽化対策等が必要となりました。雄物川水系の用水対策として『平鹿平野地区』を、排水対策として『横手西部地区』を実施し、更に平成28年8月より旭川水系の『旭川地区』が着工しています。これら3つの国営更新事業により、前歴事業の受益地全体をカバーしています。

雄物川水系（用水対策） 平鹿平野農業水利事業

事業名	平鹿平野農業水利事業
受益地	横手市、湯沢市、大仙市 水田 10,041ha
工期	平成13～25年度(13年間)
事業目的	農業用水の安定供給と施設の維持管理軽減
事業内容	皆瀬頭首工(全面改修) 成瀬頭首工(部分改修) 幹線用水路(8路線) 総延長35.2km 用水管理施設
総事業費	268億円

不足する用水について、特定他目的ダム建設事業で築造される成瀬ダム(国土交通省)に新たに水源を求めるとともに、頭首工及び用水路の改修を行い、用水の安定供給と維持管理の軽減を図りました。



改修後の皆瀬頭首工

雄物川水系（排水対策） 横手西部農業水利事業

施設への流入量の増加に対応するため、水路の排水能力を增強し、老朽化した幹線排水路を改修することにより、施設の維持管理の軽減及び湛水被害の防止を図ります。



改修後の油川幹線排水路

事業名	横手西部農業水利事業
受益地	横手市、大仙市 水田 9,102ha
工期	平成24～32年度(9年間)
事業目的	湛水被害の防止と施設の維持管理軽減
事業内容	幹線排水路(8路線) 総延長48.2km
総事業費	250億円

旭川水系 旭川農業水利事業

ダム、頭首工及び用水路の改修と併せて取水施設の統廃合と、さらには大規模地震に対し必要な耐震性を有していない施設の耐震化対策等を行うことにより、農業用水の安定供給と維持管理の費用と労力の軽減を図ります。

事業名	旭川農業水利事業
受益地	横手市、大仙市、美郷町 水田 3,159ha
工期	平成28～36年度(9年間)
事業目的	農業用水の安定供給と施設の維持管理軽減
事業内容	あいののダム(改修、耐震化対策) 頭首工3箇所(改修、耐震化対策) 用水路(4路線) 総延長16.7km 水管理施設(改修)
総事業費	150億円



改修予定の「あいののダム」の取水塔

国営平鹿平野農業水利事業（平成13～25年度）

国営雄物川筋農業水利事業の実施から半世紀近くが経過し、施設は老朽化するとともに、恒常的な用水不足が深刻化していました。このため、国営平鹿平野農業水利事業が実施されました。

施設の老朽化対策

施設の老朽化や積雪寒冷な気象による劣化が著しく、施設の維持管理には多大な労力と経費を要していました。

成瀬頭首工、皆瀬頭首工及び老朽化が著しい幹線用水路35.2kmを改修し、用水の安定供給と維持管理の軽減を図りました。



用水不足対策

夏季に自流量が乏しい成瀬川と皆瀬川からの取水の安定、農作業の機械化による代かき期の集中需要への対応及び用水不足時の地下水利用に係る井戸用ポンプ電力の削減が喫緊の課題となっていました。

代かき用水(最大)を $14.885\text{m}^3/\text{s}$ から $30.292\text{m}^3/\text{s}$ に増大させ、用水不足の解消を図りました。また、関連事業として別途建設が進められている成瀬ダム(特定多目的ダム、国土交通省)に新たに水源を求めました。

新たな用水慣行への工夫

これまでの用水慣行では、水路下流部は、上流からの排水を期待して反復利用を見込んでいました。しかし、これは用水が不安定であるだけでなく、公平な取水を阻害する要因でもありました。

このため、新たな配水施設として、上流用と下流用の併設(2連式)用水路を設け、それぞれの受益地に独立して配水できるように改良しました。



皆瀬2号幹線用水路
流量： $5.36\text{m}^3/\text{s}$
改修：7.7km

計画取水量：30.26 m³/s
フローティングタイプ複合堰
堰長：237.16m
固定部：92.66m
可動部：144.50m



旧頭首工の上流80m地点に新しい皆瀬頭首工を建設しました。旧頭首工は全可動堰でしたが、新頭首工は固定堰と可動堰を組み合わせた複合堰とすることでコスト縮減を図りました。また、魚類調査結果や機能性等を総合的に勘案し、左右岸にタイプの異なる魚道を設置しました。

成瀬頭首工

成瀬頭首工は、堰本体の致命的な劣化がないことから、施設の長寿命化を図るため、機能診断調査・評価に基づいて堰体、ゲート、取入口、護床工、護岸工、付帯施設の補修・改修を行いました。



計画取水量：5.51 m³/s
フィックスドタイプ全可動堰
堰長：65.5 m



幹線用水路(8路線)

皆瀬1号幹線用水路
流量：30.26 m³/s
改修：5.7km



皆瀬3号幹線用水路
流量：13.81 m³/s
改修：4.9km



用水管理施設(中央管理所)



用水管理制御システムを導入しました。これにより、中央管理所(雄物川筋土地改良区)において、皆瀬頭首工、成瀬頭首工及び幹線用水路など計10箇所の施設を監視・制御できるようになりました。

成瀬ダム(特定多目的ダム、国土交通省)

成瀬ダムは雄物川水系成瀬川に建設される予定です。洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の補給、水道用水の供給、発電といった目的を有する多目的ダムです。完成すれば、約10,050haの農地に対するかんがい用水が補給されることになります。



完成予定図



(東北地方整備局成瀬ダム工事事務所HPより)

国営横手西部農業水利事業（平成24～32年度）

前歴事業の実施により、農地の湛水被害は少なくなりました。しかし、近年、施設の老朽化に伴い排水能力が低下するとともに、降雨形態の変化及び土地利用の変化に伴い排水能力以上の排水が施設に流入し、再び湛水被害が目立つようになりました。

このため、施設への流入量の増加に対応するため、排水計画を見直し、老朽化した幹線排水路を改修する国営横手西部農業水利事業を実施しています。

湛水被害の状況

① 石持川幹線排水路



平成19年8月22日 最大時間雨量 24.0mm

（気象庁横手観測所）

② 五郎兵衛排水路



平成23年6月24日 最大時間雨量 10.5mm

（気象庁湯沢観測所）

施設の老朽化状況

③ 吉田幹線排水路



連節ブロックの崩壊

連節ブロックは各所で沈下・欠落が発生。劣化要因は背面土砂の吸い出しによる空洞化と推定されています。

④ 油川幹線排水路



積ブロック護岸の崩壊

積ブロックの変状の大部分は沈下及びはらみ出しです。基礎地盤が想定より軟弱であったことが要因と推定されています。

横手西部地域 一般計画平面図



✓ 整備水準

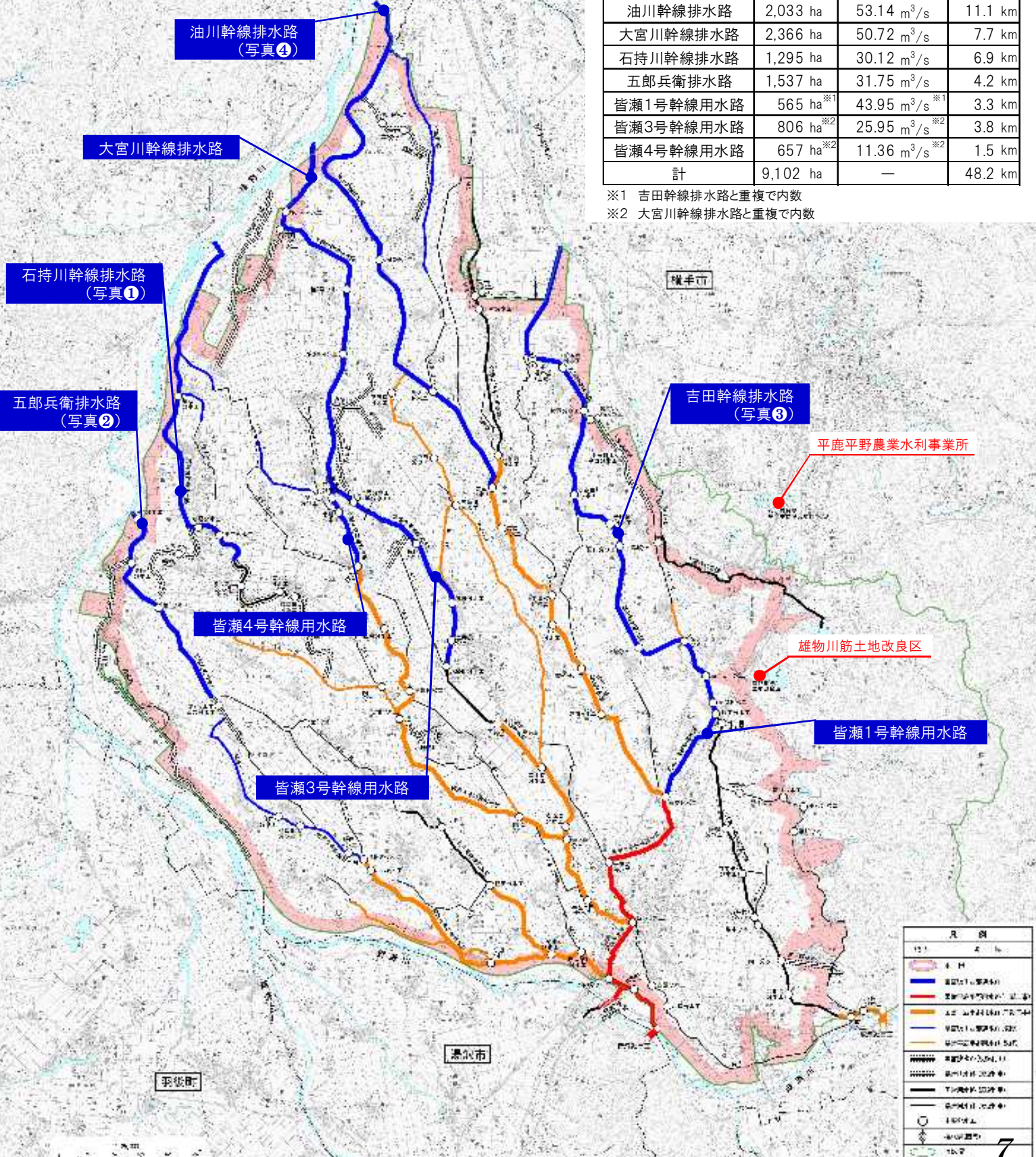
1. 計画基準雨量
日雨量：107mm (1/10)
2. 計画排水方式
排水方式：自然排水
許容湛水：30cm以上24時間以内

✓ 主要工事計画

施設名	受益面積	計画排水量	延長
吉田幹線排水路	1,871 ha	102.91 m ³ /s	9.7 km
油川幹線排水路	2,033 ha	53.14 m ³ /s	11.1 km
大宮川幹線排水路	2,366 ha	50.72 m ³ /s	7.7 km
石持川幹線排水路	1,295 ha	30.12 m ³ /s	6.9 km
五郎兵衛排水路	1,537 ha	31.75 m ³ /s	4.2 km
皆瀬1号幹線用水路	565 ha ^{※1}	43.95 m ³ /s ^{※1}	3.3 km
皆瀬3号幹線用水路	806 ha ^{※2}	25.95 m ³ /s ^{※2}	3.8 km
皆瀬4号幹線用水路	657 ha ^{※2}	11.36 m ³ /s ^{※2}	1.5 km
計	9,102 ha	—	48.2 km

※1 吉田幹線排水路と重複で内数

※2 大宮川幹線排水路と重複で内数



事業の実施状況（横手西部地区）

工事は農業に水を使わない10月～3月にかけて実施しています。水路には常時流水があるため、半川締切りにより片岸ずつ施工を行っています。また、横手市は秋田県内でも有数の豪雪地帯であるため、除雪をしながら工事を行っています。

1 着工前



2 半川締切(鋼矢板打設)

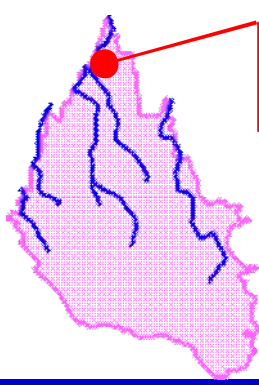


5 右岸側 施工完了

転流

6 左岸側 施工開始





撮影場所: 油川幹線排水路
大雄字東中島地内

→ **3** 右岸側 既設積ブロック撤去



→ **4** 右岸側 新設積ブロック施工



大型積ブロックの設置状況

→ **7** 左岸側 新設積ブロック施工



コンクリートの養生

→ **8** 両岸施工完了

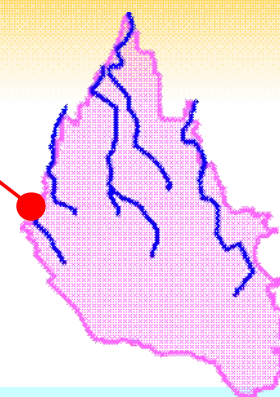


鋼矢板引抜き

事業効果の発現（横手西部地区）

老朽化した幹線排水路の改修が進み、周辺農地の湛水被害が防止されています。

撮影場所：五郎兵衛排水路
雄物川町深井地内



改修前

平成23年6月24日 降水量 66.5mm
時間最大 AM3:00頃 11.0mm

約6時間後



農地湛水



平成24年7月6日 降水量 31.5mm
時間最大 AM2:00頃 19.5mm

約7時間後



農地湛水



改修後

平成27年9月11日 降水量 52.0mm
時間最大 AM4:00頃 19.5mm

約6時間後



吉田幹線排水路

改修後

改修前

塚堀地内

油川幹線排水路

改修後

改修前

大雄字高津野地内

大宮川幹線排水路

改修後

改修前

大雄字山王地内

皆瀬1号幹線用水路

改修後

改修前

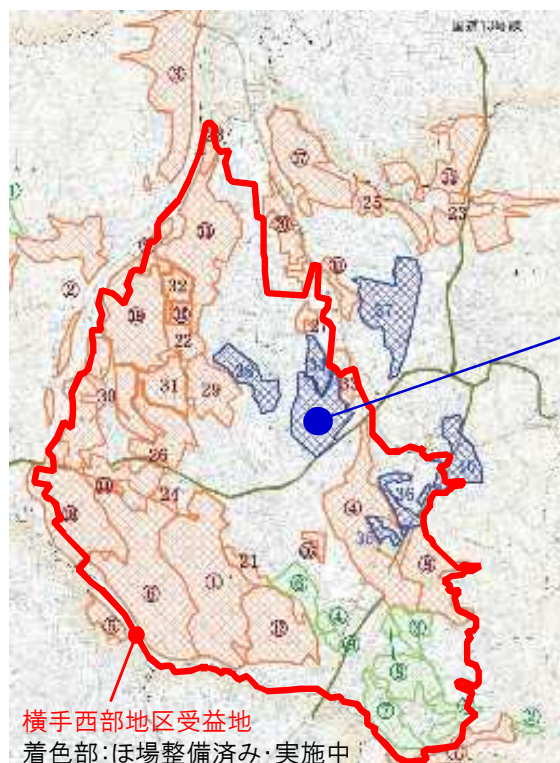
平鹿町醍醐字四ツ屋地内

事業受益地内の農地の状況

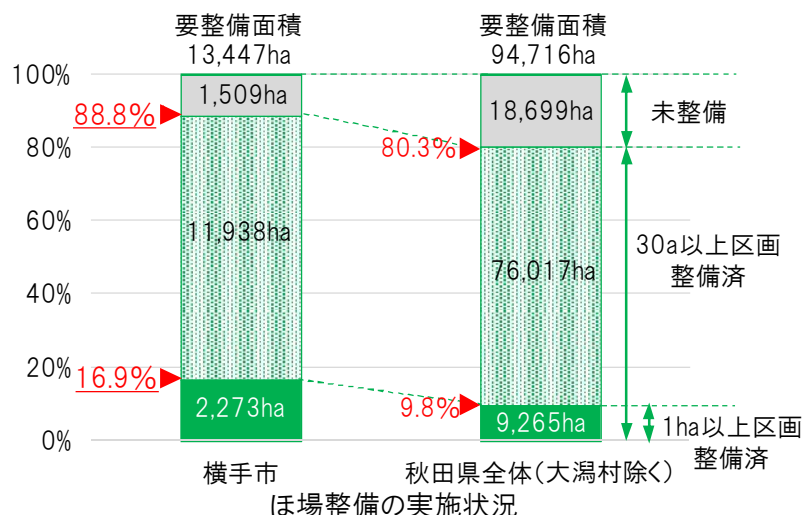
事業受益地内（横手市）では、ほ場整備が秋田県全体（大潟村除く）と比較して大きく進展しているほか、農地中間管理事業等を活用した農地集積も加速しています。

ほ場整備の状況

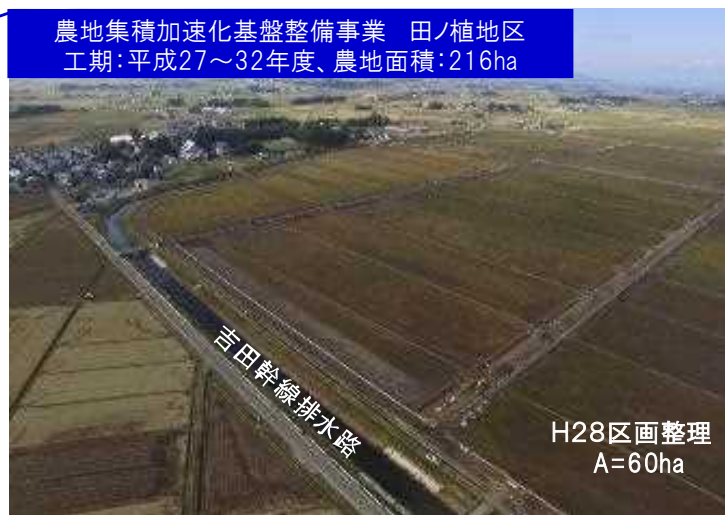
- ✓ 30a区画以上整備済
横手市 **88.8%**（全県80.3%）
- ✓ 1ha区画以上整備済
横手市 **16.9%**（全県9.8%）



受益地内におけるほ場整備の状況
※表紙:受益地の航空写真



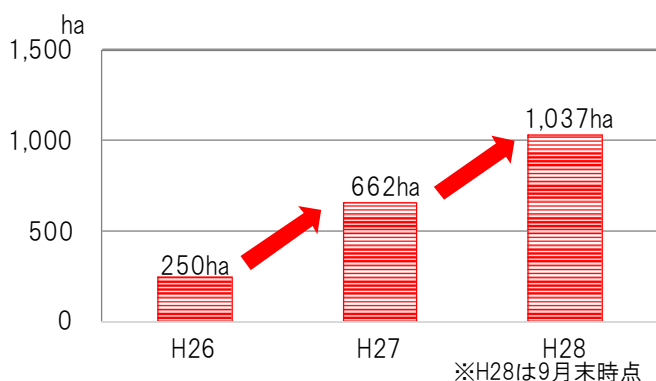
農地集積加速化基盤整備事業 田ノ植地区
工期:平成27~32年度、農地面積:216ha



(秋田県平鹿地域振興局)

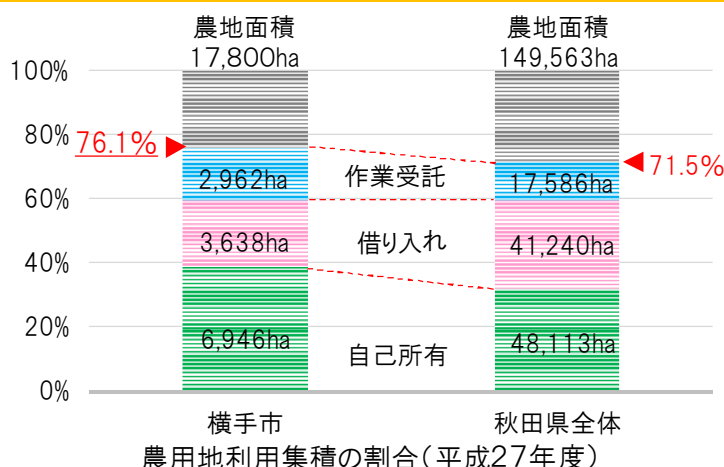
農地の集積状況

- ✓ 担い手への農用地利用集積面積の割合
横手市 **76.1%**（全県71.5%）
- ✓ 農地中間管理事業の累計貸付実績
横手市 **1,000ha超。**



秋田県農地中間管理事業の累計貸付実績(横手市)

(横手市農林部)



(横手市農林部)



(公益社団法人秋田県農業公社HP)

横手市の農業

横手市は、水稻を中心に大豆・そば・野菜等を組み合わせた複合経営が進展しており、農産物の一大生産基地になっています。

主要農産物

✓ 2015年水稻収穫量

全国 **第5位** (t)

1	新潟県 新潟市	137,000
2	秋田県 大仙市	77,600
3	新潟県 長岡市	65,600
4	山形県 鶴岡市	65,500
5	秋田県 横手市	65,200
6	秋田県 大潟村	60,400
7	宮城県 登米市	60,200
8	新潟県 上越市	59,500
9	岩手県 奥州市	59,100
10	宮城県 大崎市	56,400

✓ 2015年すいか作付面積

全国 **第5位** (ha)

1	熊本県 熊本市	478
2	山形県 尾花沢市	363
3	新潟県 新潟市	274
4	熊本県 山鹿市	217
5	秋田県 横手市	211
6	千葉県 富里市	202
7	鳥取県 北栄町	201
8	長野県 松本市	189
9	北海道 共和町	173
10	千葉県 八街市	169

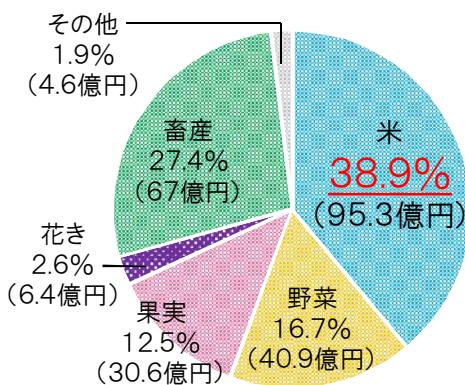
✓ 2015年そば収穫量

全国 **第10位** (t)

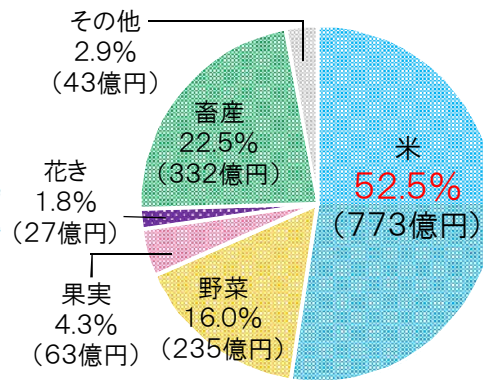
1	北海道 幌加内町	3,020
2	北海道 深川市	1,610
3	北海道 音威子府村	867
4	北海道 旭川市	681
5	福井県 坂井市	516
6	茨城県 筑西市	476
7	福井県 福井市	400
8	北海道 滝川市	391
9	北海道 沼田町	389
10	秋田県 横手市	358

(農林水産省HP)

農業産出額



横手市
(245億円)



秋田県全体
(1,473億円)

農業産出額(平成26年度)

✓ 横手市は全県トップの農業産出額。

第1位 **横手市** **245億円**

〔第2位 大仙市 184億円〕

〔第3位 由利本荘市 102億円〕

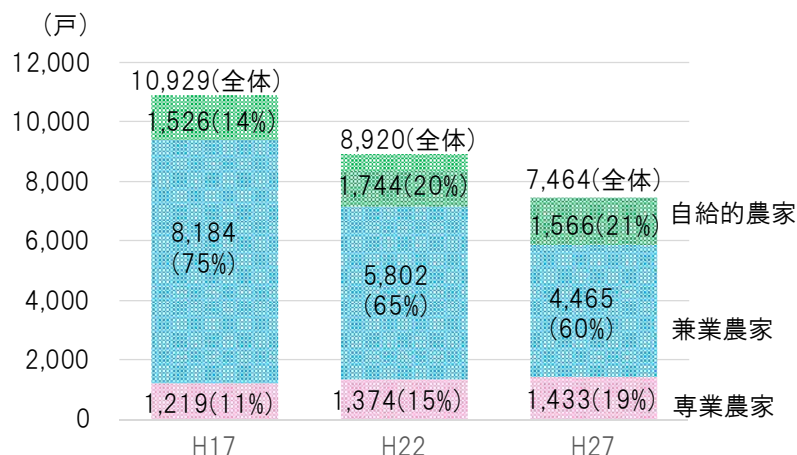
✓ 秋田県全体に比べて米の割合が低く、野菜・果実等の複合化が進展。

米 横手市 **38.9%** (全県52.5%)



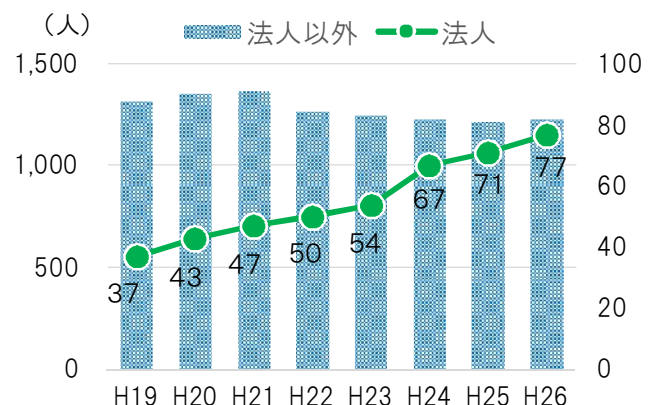
(農林水産省HP)

農家数、認定農業者数



農家数の推移(横手市)

(2015農林業センサス)



認定農業者の推移(横手市)

(秋田県HP)

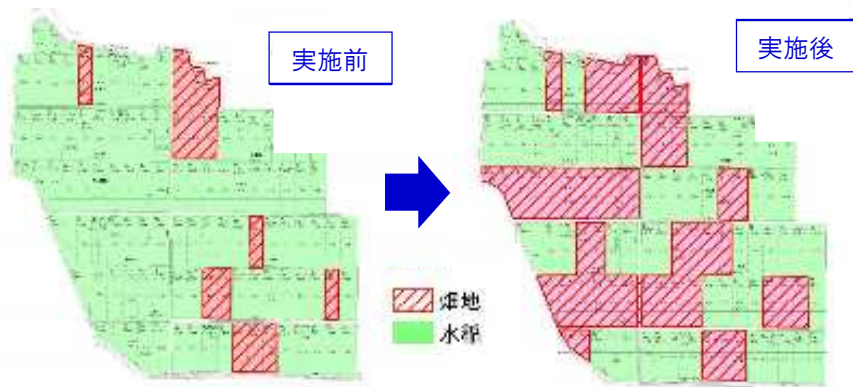
新たな「土地改良長期計画（平成28年8月24日閣議決定）」では、「豊かで競争力ある農業」実現のため、産地収益力の向上を掲げています。米中心の営農体系から野菜等の高収益作物を中心とした営農体系への転換など、農業者の自立的な経営判断に基づく生産を促すため、水田における畑作物の導入及び品質向上・収量増を可能とする排水改良や地下水位制御システムの導入を推進しています。

TOPIC 1 地下灌漑システムの導入により、高収益性作物の栽培を拡大

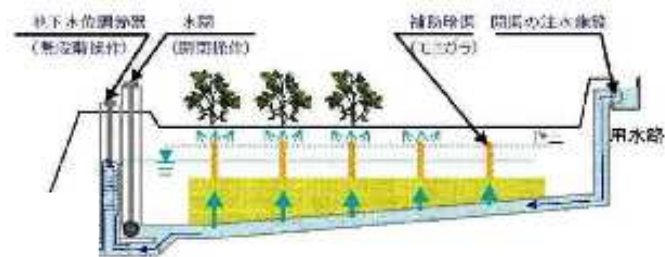
- ✓ 営農形態に応じて地下水位をきめ細やかに管理できる「**地下灌漑システム**」を導入。
- ✓ コメを大幅に減らし、新たにキャベツの作付けを開始することで、**本格的なコメ依存からの脱却**。
- ✓ 地区内農地の**利用集積率は76.4%に上昇**、**畑地利用は3倍**。
- ✓ **地域の雇用創出にも効果を発揮**（収穫時期延べ約280人）。

事業実施地区

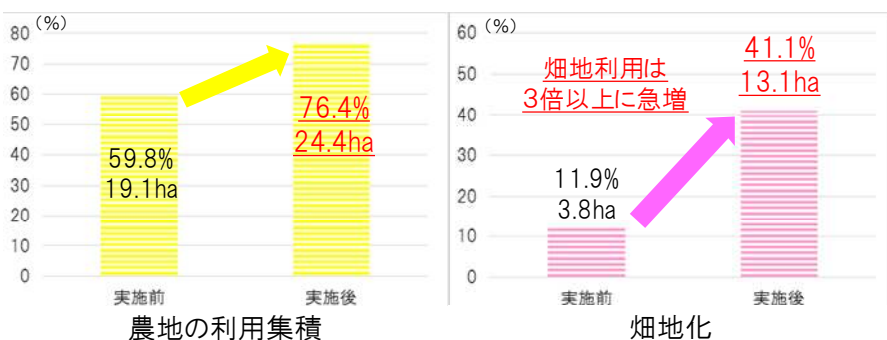
事業名：
戦略作物団地化促進
万能水田実証事業
地区名：横手南部地区
受益面積：31.9ha
工期：平成25～27年度
事業内容：
地下かんがいシステム、
水路改修



事業実施前後の作付け状況



秋田県の地下灌漑システム模式図



横手市平鹿町醍醐
(秋田県平鹿地域振興局)

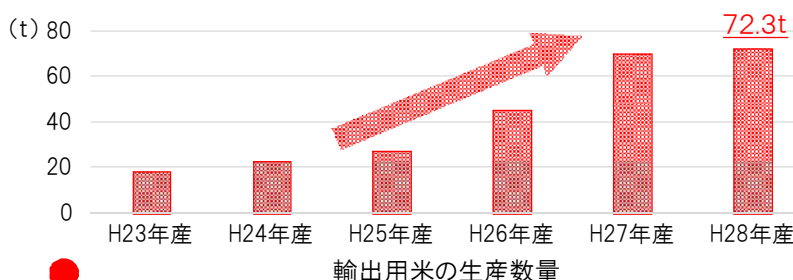
TOPIC2 集落全体で取り組む環境保全型農業を通じたコメ輸出の展開

- ✓ 集落全体の利益確保に向けて、営農組合の全59戸がエコファーマーの認定を受け、減農薬・減化学肥料の特別栽培米を生産。平成28年11月、JGAPアドバンス認定を取得。



JGAPは、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証です。
GAP: Good Agricultural Practice

- ✓ 他県の米卸売業者と米輸出を目的とした株式会社を設立し、A-FIVEの出資を受けつつシンガポール等への米輸出事業を展開。



農事組合法人 樽見内営農組合

経営規模: 44ha(H17) → 91ha(H28)
組合員数: 24人(H17) → 59人(H27)
主要作物: 米77ha
(主食用米50ha、輸出用米12ha、飼料用米等15ha)
そば4ha、すいか0.8ha、小菊0.5ha、枝豆0.5ha



伊勢丹シンガポール
東北フェア
(平成28年11月)

インタビュー (農)樽見内営農組合 渡部さん

米の輸出について将来展望を聞かせてください。

ーシンガポールでの米の需要はまだ小さいですが、日本産米は品質で十分勝負できると考えています。今後は、外国を相手に商売をするという意識改革を進め、若い後継者の育成を推進したいと思います。

土地改良事業に対する意見を聞かせてください。

ー高齢化が進むにつれ、水路法面の草刈りをはじめとする施設の維持管理は益々大変になっています。平成19年に始まった農地・水保全管理支払はよく考えられた画期的な仕組みだったと思います。土地改良事業も高齢化を踏まえた大きな変革が必要な時期にきているのではないかと思います。

TOPIC3 2年3作の栽培体系により収益性の高い農業経営を確立

農事組合法人 塚堀農事生産組合

経営規模: 238ha
組合員数: 10名
主要作物:
米、小麦、すいか、キャベツ、
大豆、タマネギ、ほうれん草

- ✓ 水稻・WCS→小麦→キャベツの2年3作の栽培体系により収益性の高い農業経営を確立。
- ✓ 茨城県の企業と連携してカット加工用のキャベツを栽培。タマネギは横手市内の学校給食センターに提供するなど、市況に左右されない安定供給を実現。
- ✓ 農地中間管理事業を活用し、経営規模を238haまで拡大(→P.20)。



水稻



小麦



キャベツ

	1年目				2年目			
	1 ~ 3	4 ~ 6	7 ~ 9	10 ~ 12	1 ~ 3	4 ~ 6	7 ~ 9	10 ~ 12

水稻・WCS ◆直播も実施

小麦 ◆稲刈り後に耕起～播種

キャベツ ◆小麦収穫までに苗を育て、小麦収穫後に植え付け

TOPIC 4 取引先のニーズに対応できる栽培体系で収益力を向上

- ✓ 取引先の様々なニーズに対応するため、米・そば・野菜・果実などを出荷時期を考慮しながら栽培。
- ✓ そばは二期作、小麦は二年三作を行うなど農地をフル活用。そばは自社の乾燥調整施設を活用し、収穫から販売まで延べ約190haを受託。

農事組合法人 きずな

組合員数: 34戸

主要作目: 水稻 36.2ha、そば17ha、枝豆4ha、大豆0.6ha、すいか0.2ha、トマト0.2ha、ネギ0.5ha、葉菜類0.2ha

受託: そば作業(夏秋延べ)190ha

インタビュー きずな代表 齋藤さん

取組みのきっかけを教えてください。

--若いときから秋田県の米依存型農業に不安を感じていました。そばは20年近く前から栽培しています。

多品目栽培にあたって農地の使い分けはしていますか。

--客土水田は水稻、基盤整備済ほ場は転作、未整備ほ場はそばといったように、ほ場条件に合わせて使い分けをしています。

国営事業に対する意見を聞かせてください。

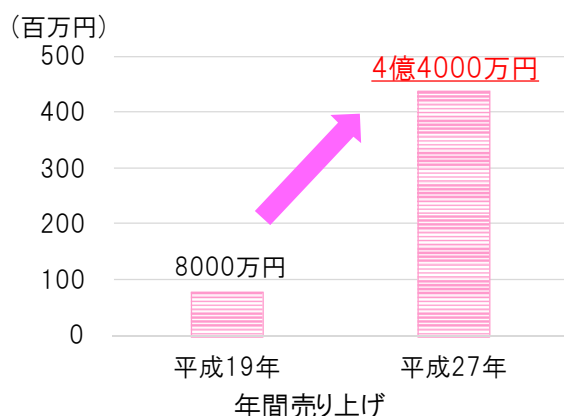
--この地域ではこれまで度々湛水被害を受けてきました。最近は転作が増加していることから、排水整備の重要性は益々高まっていると思います。

TOPIC 5 地元の農産物を加工・販売し、年間売り上げ4.4億円へ

道の駅十文字

設立時期: 平成19年9月
会員農家数: 260戸
内容: 地元農産物の加工・販売
来客数: 62万人(H27)

- ✓ 地域の交流の場として、加工施設を併設した直売所「道の駅十文字」を設立。
- ✓ 地元の農産物にこだわり、横手市産は全体の95%。会員農家は市内に約260人。農家自ら価格を設定して販売。
- ✓ 県内外のアンテナショップ、病院、役所などでの外販を積極的に展開。



道の駅「十文字」の外観



加工施設



加工品の販売



農家自身が持ち込み・陳列



直売所の様子

新たな「土地改良長期計画」では、「豊かで競争力ある農業」実現のため、担い手の体質強化を掲げています。畦畔除去による簡易な大区画整備や、農作業の負担軽減を図るための遠隔監視操作を可能とするICTの導入等を推進しています。また、農地中間管理機構との連携を更に強化し、担い手への農地の集積・集約化を加速することとしています。

TOPIC6 農地中間管理事業等を活用し経営規模を238haまで拡大

✓ 基盤整備事業(清水町地区)では、

① ほ場の7割が均平であることを活かし、安価な畦畔除去により、2～3haの大区画ほ場を整備。

② 農地中間管理事業を活用し、81%の農地を集積。

✓ 地区内の中心経営体の1つである(農)塚堀農事生産組合は、農地中間管理事業等を積極的に活用し、経営規模を238haまで拡大。

農地集積加速化基盤整備事業 清水町地区

工期:平成23～28年度

基盤整備面積:

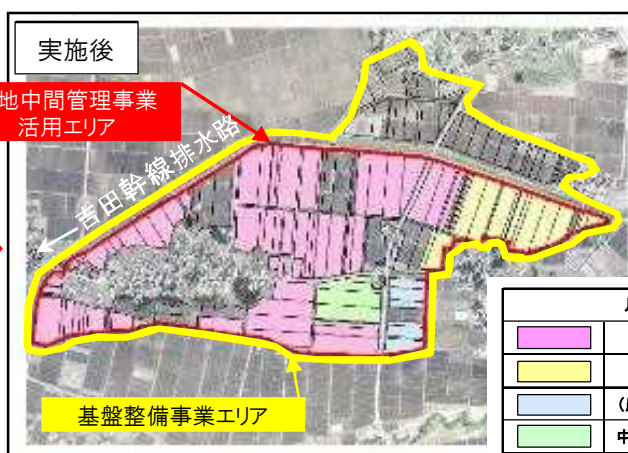
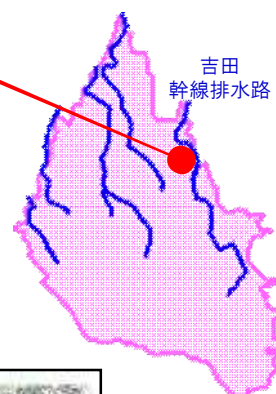
66.13ha

中間管理事業エリア面積:

55.30ha

中間管理事業活用集積面積:

44.82ha



凡 例	
	(農)S町
	(農)G会
	(農)塚堀農事生産組合
	中心経営体(個人)

インタビュー (農)塚堀農事生産組合 鈴木さん

農地中間管理事業を活用した感想を聞かせて下さい。

--- 毎年の賃料が機構から確実に振り込まれるので、法人経営の上でも事務負担が軽減されて助かっています。地域集積協力金は、地域農業を担う4中心経営体で農業機械の購入資金に活用しました。法人の経営安定及び地域農業の振興と発展に繋がっています。

国営事業に対する意見を聞かせて下さい。

--- 農地集積を進める上で、用排水施設の整備は不可欠です。国営事業で基幹施設をしっかりと整備してもらうことで、末端施設の整備も進みます。



- ✓ 首都圏からUターンした若手農業者らが中心となって管理・運営するライスセンターで、集落の半分にあたる約180haのコメを受け入れ。
- ✓ 農地の集積を進めつつ、**水田センサ「パディウォッチ」**や、**生産管理システム「アグリノート」**を導入し、水田作業を効率化。



農事組合法人 館合ファーム

法人設立:平成19年
組合員数:17戸
経営規模:36.2ha
主要作物:
米(あきたこまち)22ha
飼料用米10.9ha、
すいか2.6ha

パディウォッチ



ほ場の水位、水温、気温、湿度を24時間自動監視。データは10分毎に記録され、クラウドサーバに送信される。異常発生時には情報端末のアラームが鳴る。

アグリノート



①作業員の作業記録、②肥料・農薬散布等の生育記録、③収穫記録等をスマート管理。

インタビュー (農)館合ファーム 小西さん

取組のきっかけを教えてください。

--平成19年にJAあきたふるさとからライスセンターの管理・運営を引き受けたことを契機として法人化しました。集落の高齢化等の影響もあり、年々利用者は増え、平成28年度の施設稼働率は140%に達しました。

農業ICTの活用について教えてください。

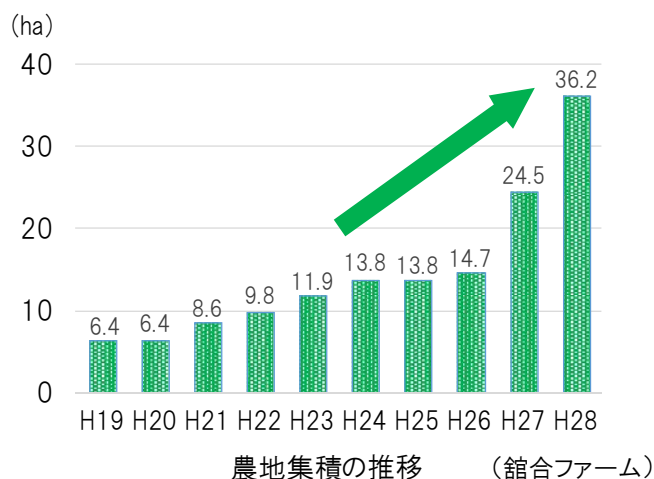
--きっかけはJAからの提案でした。水管理センサは1ha毎に1台で計4台設置しています。取組みはまだ始めたばかりであり、より良い活用法を模索しているところです。

現在直面している課題等があれば教えてください。

--年々米の刈り取り受託面積が増加していますが、農地がまばらであるため作業効率が上がりません。農地の団地化が進めば効率は格段に上がると思います。

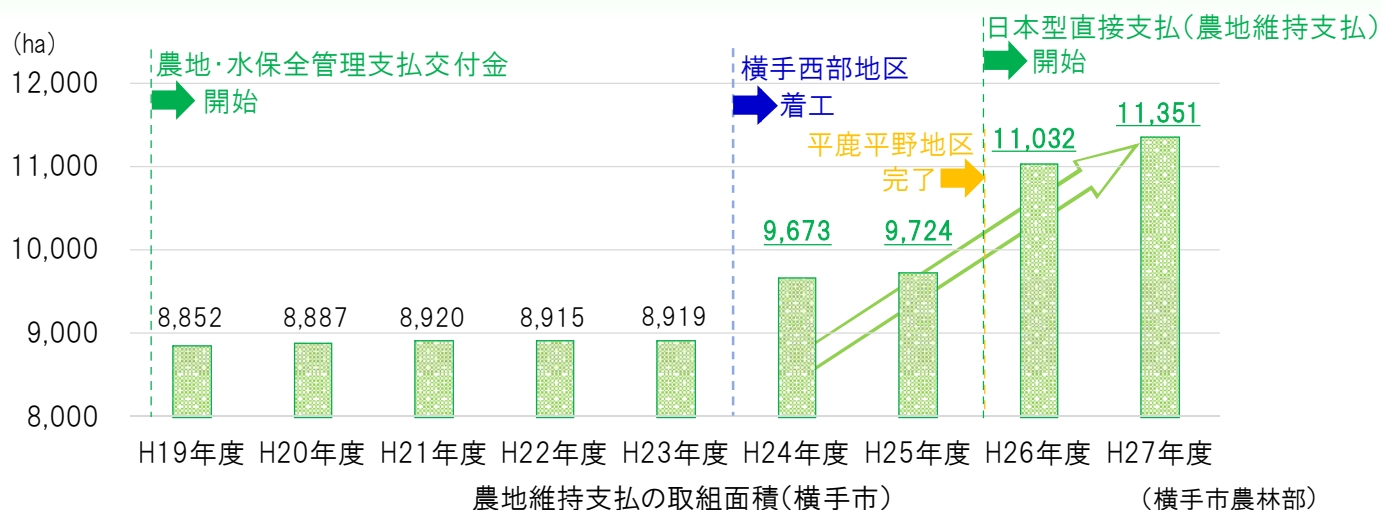
今後の目標を教えてください。

--新たにハウスを30棟建設し、ホウレン草やすいかの栽培を拡大し、年間1億円の販売を目指したいと考えています。



法人の中心施設 ライスセンター

新たな「土地改良長期計画」では、「美しく活力ある農村」実現のため、農村協働力と美しい農村の再生・創造を掲げています。将来にわたって多面的機能の維持・発揮を図るとともに、農業の構造改革を後押しするため、多様な人材の参画や集落間連携による取組の広域化を促進し、農村協働力を活かした地域資源の保全管理体制を強化することとしています。



特定非営利活動法人
樽見内地域資源保全委員会

法人登記:平成19年

協定農用地:259ha

会員:個人会員234名、団体会員22団体
事業:

- ① 農村環境及び農村資源の保全及び質的向上を図る事業、
- ② 子どもの育成に関する事業、
- ③ 農村の伝統や慣習の継承に関する事業、
- ④ 少子高齢化の農村における福祉に関する事業

✓ 古き良き農村集落の営み「結い」をテーマに掲げ、農業の先輩者より、昔の農法、村の営み・行事等を教わり、再現することで、今の時代にふさわしい「結い」の姿を模索。

✓ 平成27年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」で、農林水産大臣賞を受賞。

私たちの祖先が見だし、私たちの時代に忘れた「結い」をまた地域ぐるみで復活し取り組むことにより、少しでも農村環境の向上につながれば良いと考えています。集落の皆が夢を持ち、皆で集落を守っていく、そんな集落の姿を私は夢見ています。



農地維持活動 草刈り



資源向上活動(長寿命化)



景観形成 夢花壇



地域住民との交流 施設訪問



農村文化の継承



農村文化の継承

個性と活力ある豊かな平鹿平野の実現に向けて
地域農業を牽引されている方々



館合ファーム

- ・構成農家数： 17戸
- ・経営規模： 36.2ha
- ・主要作目： 米、すいか
- ・運営するライスセンターで185haの水稲を受け入れ。



塚掘農事生産組合

- ・構成農家数： 10戸
- ・経営規模： 238ha
- ・主要作目：米、小麦、すいか、
キャベツ、大豆、タマネギ、
ほうれん草
- ・中間管理事業等を活用し、経営規模
を拡大。



農事組合法人きずな

- ・構成農家数： 34戸
- ・主要作目： 米、そば、枝豆、大豆、すいか、トマト、ネギ、葉菜類
そば作業受託190ha
- ・出荷時期を考慮した多品目栽培を実践。

秋田県平鹿地域振興局農林部
横手市農林部

東北農政局 平鹿平野農業水利事業所

雄物川筋土地改良区



道の駅 十文字

会員農家数：260戸
 産直品：販売の95%は地元産品
 販売額：4億4,000万円（H27）
 来客数：62万人（H27）



樽見内宮農組合

- ・構成農家数： 59戸
- ・経営規模： 87.6ha
- ・主要作目： 米、そば、すいか、
 花卉、枝豆
- ・集落全体で取り組む環境保全
型農業を通じたコメ輸出の展開。

[illegible]



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

東北農政局 平鹿平野農業水利事業所

〒013-0051

秋田県横手市大屋新町字大平99-39

電話：0182-35-7781

FAX：0182-35-7784

